

博物館評価

I 博物館評価について

2010年度より、当館では事業戦略会議ワーキングチームを立ち上げて、博物館評価(自己評価)の作業を開始した。この博物館評価は、NPOが指定管理者として管理運営をする中で、事業のみならず博物館活動全般において、それまで行ってきたことをチェックして改善をはかるために実施している。

ワーキングチームのメンバーはNPO法人野田文化広場事務局長と学芸員4名で、検討内容の途中経過は随時、その間に開かれた企画事業委員会や法人の理事会で報告して意見を聴取してきた。

博物館評価表(104～106ページ)は、当館の3つのミッション(13ページ)を大項目とし、これに対応するようにして、それぞれの具体的な目標となる中項目を設定した上でさらに具体的な評価指標の項目をあげた。そこに、指定管理運営となった2007年度以降のデータを入れ、経年的な推移を示している。また本年度は新たにモニタリング調査等でデータ収集した。モニタリング調査の詳細はIVに述べる。

II 自己分析(Check)

①博物館機能を充実させる

資料収集や調査研究等の博物館の基礎機能を充実させることである。博物館の基礎機能とは、博物館の存在基盤であるコレクションのマネジメントである。2007年度以降、本格的なコレクションの収集、整理、保管管理と公開に向けた準備作業を行ってきた。また、その情報を公開することも進めている。

【現状評価】

資料収蔵点数(1)は堅調に推移している。収集方法が寄贈や購入が主となり、不必要な寄託が行われていない点(3)は、昨年度に引き続き評価できる。資料購入は、昨年度から改善され、効果的に予算を活用して必要な資料を購入することができた(4)。昨年度の評価をふまえて、年度の始めより意識的に資料情報を収集、市民らとの情報交換につとめるなどしたことで、効果的に資料購入できたと考えられる。収蔵庫の管理においては定期的なモニタリングを続けており(5)、異変があればすぐに気づくことができる体制がとられている。

学芸員の講演・講座件数はこれまでで最も多くなった(6)。高校、大学や高齢者団体からの依頼に応じたことに加えて、当館事業(自主研究グループ育成連続講座)での講師を務めたためである。また、講師業務が1人の学芸員に偏るのではなく、学芸員4名全員で万遍なく務めている点も評価できる。

新規収蔵資料の公開はこれまで意識的にやっていなかったが、本年度より、企画展(生活と文化展)の展示スペースの半分をその公開にあてることとした。これは、博物館の資料収集活動についての市民への説明責任も意味している。年間に収集した資料(2011年度の場合約1,200点)すべてを公開することはできないが、少なくとも受け入れ件数ベースではすべてを紹介することを目標とし、本年度はそれを達成することができた(9)。

写真貸出は出版社やテレビ番組制作会社からの依頼が多く、本年度も順調に増加している(10)。手続きのプロセスが統一されたことで、申請がスムーズに行えるようになっている。

【改善を要する点等】

現状の評価指標においては極めて良好に推移しているが、今後の課題として、新たに学芸員1名を増員して取り組んでいる資料再整理業務の状況も今後見ていくべきだろう。例えば、当館の各収蔵庫における整理作業日数や、データベースの整理状況などを測るものさしが必要である。特にイベント事業にあてる時間が長いと、この基礎的業務に割く時間が相対的に短くなる傾向にあるため、成果を継続的に出し続けるためには、年間の作業目標やプライオリティの設定、作業報告書の作成などを業務に位置

づけ、毎年のチェックをすると良いと考えられる。

②利用者サービスを図る

すべての利用者にかかれた博物館として、幅広い層の人のびとが来館することを目指している。そのために、公共施設としての基本的な機能を維持し、さらに館内施設の充実や利用者・関係者の満足度やニーズを把握して質の高い市民サービスを提供することを心掛けてきた。

【現状評価】

本年度は、年度開始時に東日本大震災の影響があったものの、博物館、市民会館とも大がかりな整備工事がなく、そのための臨時休館日がほとんどない1年であった。そのため開館日数的には通常ベースに戻ったといえる(12,13)。これにより博物館の総入館者数はさらにのびた(14)。この支えとなっているのが、利用者のリピーター率のようであり、本年度は50%を超える結果となった(16)。その一方で、この年度より実施をはじめたモニタリング調査によって、これまで博物館を利用してこなかった市民の利用が13.6%あることが明らかになっており(33)、より広範な市民層や新たなコミュニティの利用を目指して、今後この数値を基準として推移をみていきたい。

なお1日平均入館者数は博物館、市民会館ともに昨年度比を下回っている(15,18)。これは震災の影響があったのではないかと考えられる。特に市民会館については、年度の前半は市外からの観光、散策者のキャンセルが相次いだ。貸部屋利用団体数も4月～5月、7月～11月の間前年度比100%を下回った。それでも12月以降持ち直して994件と、最終的には最も多くなった(20,21)。中でも、市外の利用団体数が少ないながらも着実に増えてきていることがうかがえる(21)。これは市外からの見学の途中に、昼食や休憩場所として利用されているためである。

展覧会の満足度、施設の雰囲気や居心地に対する満足度はいずれも80点台中盤より高い値で維持されている点が評価される(22,23)。さらに本年度は市民会館の貸部屋利用者の満足度についても別にアンケート用紙を作成して調査をしたが、総合的な満足度は博物館の満足度と同程度であった(24)。

これらの満足度を支えていることの一つに、職員・スタッフの対応があると考えられる。職員とは非常勤も含む全職員を指し、スタッフには、博物館ボランティアや土日祝に常駐する当番ガイドも含まれている。この調査によると、来館者の76.4%が当館敷地内で職員・スタッフの何らかの対応を受けており(25)、対応を受けた来館者の満足度を他の満足度指標と同じルールで数値化すると94.6ポイントと非常に高い値であった(26)。このように現状のソフト面での細やかなサービス力は当館の強みとなっていることが理解できる。

博物館刊行物については、主たる販売場所である博物館展示室内に、博物館ボランティアが常駐し、案内を行うことで、2009年度より販売冊数が急増したが、その後2年続けて低下傾向にある(28)。原因としては、旧刊行物のうち売れ筋だったものが徐々に絶版になってきているためと考えられる。しかしながら、ショップについては、本年度より、刊行物以外の商品についてもショップコーナーでいくつか取扱いをはじめたことで全体的なショップ機能は向上していると言える。前年度(2010年度)の評価で触れた部分では、博物館を訪ねた思い出となるような品として、野田貝塚より出土したミミズク形土偶をモチーフとしたストラップを製作したこと、また、野田の特産品に関しては特別展「野田と煎餅」期間中に煎餅の詰め合わせセットを企画販売したことがあり、いずれも好評を博した。これにより本年度の刊行物以外の品物の売り上げ(29)は、金額的にも刊行物を上回る結果となっている。

【改善を要する点等】

アクセスの問題についての来館者からの指摘は、アンケートやボランティア連絡会でもたびたび報告されており、学芸員も痛感している課題の一つであった。そこで、本年度は、アクセス改善に向けた提言の一環として、モニタリング調査によって現状調査することとした。

駅(またはバス停)からのアクセス満足度(30)は、電車やバスなど公共交通機関を使って近くまで来たのち、その駅やバス停から徒歩等の手段で当館を訪れた人の満足度を、他の満足度指標と同じルールで数値化したものである。なお評価表にはないが、モニタリング調査によって、まずこういった手段で来館した人は全来館者の15%いることが分かっている。それらの来館者のアクセスに対する満足度の数値は68.9ポイントと低い値が出た。一方、自家用車によるアクセス満足度(31)は、自家用車(または友達家族の車)で来館した人で、これは全来館者の約41%にのぼることが分かっている。この来館者のアクセス満足度は85.2ポイントであった。これはまずまずの値であるが、全体の核を占める自家用車来館者の満足度を高めることには、依然として取り組む価値があると考えられる。

客観的に見ると、リピーター、しかも比較的隣に住む方の来館が多い当館にとって、アクセスの不満を訴えるのは、全体のごく一部の限られた条件下の来館者であることが分かった。しかし、その意見の多くが、道が分かりにくい、案内板がない、目印になるものがない、といった、近い(本来は便利はず)なのだがたどり着けない、という類のものである。この点は、駅から遠すぎる、道が悪い、といった状況と違って改善が可能なものと考えられる。ただし敷地外のことのため、当館ではこれらの結果も踏まえて市にアクセス改善のための提案をしており、今後案内板等を設置するなど前向きな措置がとられる予定となっている。

また、ソフト面での改善としては、アクセス問題に関する個々の問い合わせへの親身な対応を引き続き行うこと、さらに今後作成予定であるパンフレットや、リニューアルを予定しているウェブサイトへ分かりやすいマップを制作することとしている。

③市民の交流の拠点にする

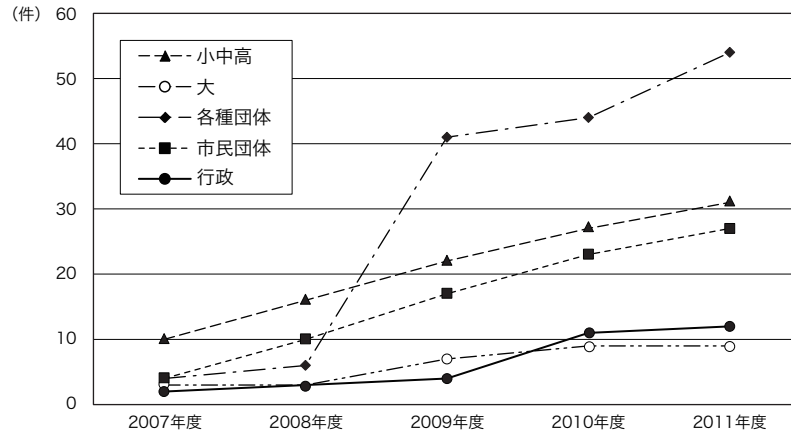
市内の様々なコミュニティに属する団体と広く連携をし、博物館がコミュニケーションの推進役となることで、地域の活性化・まちづくりに繋げていくことを目指してきた。

【現状評価】

事業全般にわたって、小中高等学校、大学、各種団体、市民団体、行政などのあらゆるコミュニティが博物館に関わっていることが分かる(35～39)。本年度新たに関係のあった団体の具体的な概要は右表の通りである。また、本年度は、特別展「野田と煎餅」の開催によって、煎餅店との連携が新たに生まれことで各種団体(商工団体)の件数が伸びた(表1)。(なお、これらの評価は累積なので、過去に既に連携関係のできた団体の名前は含まれていない。)

コミュニティの種別	団体・グループ名	内容
小中高専	福田第二小学校3年生	小学校見学
小中高専	柳沢小学校3年生	小学校見学
小中高専	宮崎小学校3年生	小学校見学
小中高専	西武台千葉高等学校	講演、2回
各種(その他)	梅郷OB会	講演
各種(その他)	千葉県博物館協会	シンポジウムパネリスト
各種(商工)	片野煎餅店	特別展
各種(商工)	金杉屋	特別展、寺子屋講師
各種(商工)	喜八堂	特別展
各種(商工)	沢田せんべい店	特別展
各種(商工)	鈴木煎餅店	特別展
各種(商工)	つるやせんべい	特別展
各種(商工)	平井せんべい店	特別展
各種(商工)	藤井本店	特別展
市民団体	NPO法人野田文化研究会	企画展関連事業
市民団体	手づくりの会	企画展関連事業、寺子屋講師
市民団体	野田古文書仲間 佐藤和宏	寺子屋講師
市民団体	CHIBA TRAILBLAZERS	ミュージアム・コンサート出演
行政	名護市関係者	視察対応

表1 新たに連携をした団体・グループ(2011年度)



モニタリング調査によって、当館がまちづくり活動に取り組んでいることを知っているかどうかをはい／いいえで尋ねたところ、過半数が「はい」と回答をした(40)。交流と連携の役目について利用者が認知をしていることは、今後利用者が交流連携をする可能性や、その事業へ協力する可能性があることを表していると考えられる。

【改善を要する点等】

交流事業とは博物館や文化広場がファシリテーターをつとめ、博物館・市民会館を会場に、市民同士や異分野の人同士の交流をサポートするような事業である。交流事業について、今年度は当初予定の3回を実施できたが、参加者数はやや減少傾向となった(34)。また、各種団体(農・商工・医療福祉)(37)のうち、農業及び医療福祉関係との連携について引き続き意識して伸ばしていくことが課題である。

④市民や市役所との意思疎通を図る

博物館職員と市民とが対等にコミュニケーションをすること、管理課との意思疎通をスムーズに行い、円滑な博物館運営につなげることを目指してきた。

【現状評価】

特別展開催初日に開催するオープングレセプションは博物館と市民とのコミュニケーションの機会となっている。本年度は55名の参加者があったが、特別展に協力していただいた市内の11店の煎餅店のうち、10店舗の店主に列席をいただき意義深いものとなった(42)。市長、副市長、教育長は、オープングレセプションをはじめ、通常の開館日にも、頻繁に来館しておりその回数は例年よりも多かった(46)。また、市職員の来館は増加しており、市(本庁)が博物館を一出先機関、あるいは指定管理者運営施設だからといって放置するのではなく、注意、関心を向けていることを表している。また、今年度は震災の事後処理等の対応も含まれており、比較的多くなった(45)。

一方、博物館の職員が市役所を訪問した回数も計測を開始した(47)。作成した業務報告や寄贈申込書等市役所に決裁権がある書類の提出、またチラシの受け渡し、経理関係業務、施設管理面の打ち合わせなど市役所を訪問する機会は平日中心に頻繁にあり、そのたびに市役所職員とやりとりがあることから、市役所と指定管理者の意思疎通は十分に取れている状態と考えられる。

また、本年度から新たに、野田の歴史や文化等、市内の文化資源に関する話題や情報、自身が所有する資料についての情報が当館に寄せられた件数を計測開始した(44)。これは地域の文化資源に関する基調な生の情報の収集の機会となるが、同時に、市民が博物館にこれを伝えたいと、信頼してくれている証でもある。信頼関係は意思疎通の大前提と考えられる。今後、この数値を維持あるいは上昇していくことが望ましいであろう。

【改善を要する点等】

博物館やまちづくりについての意見を市民から出してもらう場を、2007年度に一度ワークショップという形で設けたきりとなっており、意見交換や対話の場を設けることが課題である(43)。

⑤博物館の活動を広める

情報発信をし、市民が博物館の情報を入手しやすい環境を作ってきた。また、メディアに取り上げてもらうことによって、博物館や野田の魅力の向上に努めてきた。

【現状評価】

TV、雑誌、新聞、ロケ地利用はほぼ平年なみの状況となった(48～51)。今後も市役所の定例記者会見への情報提供や各新聞社への事業案内の送付等を続け、新奇性や時節に合わせた企画を事業の中に含めていくべきである。

【改善を要する点等】

ホームページのアクセス数が、2010年度まで増加傾向と見受けられたが、本年度は下降した(52)。これについては、現状では、2009年度は建築家山田守に関する特別展、2010年度は名人戦の対局会場になったことでその該当月のアクセス数の大幅な伸びがあったという見方ができる。とは言え、現在の平均的なアクセス数(5万2000程度)が今後も継続される保証はない、近年のウェブのトレンドをとらえたコンテンツの拡充、改善がいずれ必要になるだろう。さらに、閲覧者が探していた情報にスムーズにたどり着いたのか、知りたい内容とホームページ上のコンテンツ内容が合致しているかもチェックをする必要がある。

⑥市民のキャリアデザインに貢献する

市民が、キャリアデザイン事業に関心をもって参加することを目指した。また、ライフキャリアの各段階に応じた支援をすることで、市民が、学習目標の達成、キャリアの再設計、社会参加や地域貢献へつなげていけるようにした。

【現状評価】

企画展の平均入館者数は増加傾向にあり今年度も昨年度に引き続き8000人台と多かった(53)。寺子屋講座の平均参加者数は微増傾向である(54)。寺子屋講座の定員は20人としていることから、理想的な参加者数と考えられる。キャリアデザイン事業の平均参加者数は、今年度はやや少ないが、昭和のくらしの道具講座の参加者数が比較的少なかったことが影響している。しかしながらこのメンバーは、その後学芸員からの呼びかけに応じて自主研究グループを組織し、定期的な活動を続けていることで(60、61)市民のキャリアのステップアップにおいては着実な効果が上がっているものと考えられる。また、2009年度に設立した野田古文書仲間も定期的な活動を続けてきた(59)。特に本年度は、翌年度に市民の文化活動報告展を実施することを目標に、精力的に活動をしている。博物館ボランティアは2011年度10人体制で運営を行ったことでこれまでで最も業務回数が増えている(66)。これは同時に、博物館が無になる期間がさらに減少したことを示している。

【改善を要する点等】

自主研究グループとして発展できなかった過去のグループについては今回の評価表には含めていないが、今後は既存のグループの着実な成長をサポートすることを主たる目標としたい。メンバー本人のやむをえない事情の場合もあるが、博物館のサポート不足によるメンバーの脱会は避けるようにしたい。また、新たなメンバーを入れて、会の活動を新陳代謝させていくことも課題である。

博物館ボランティアについても自主研究グループと同じくボランティアのステップアップの機会を意

識的に設けていくこととしたい。

III 改善(Act)

本項では、特に前年度までのチェックを受けてのアクト(Act)=改善についてまとめる。新たに改善し、効果が確認されたのは、資料購入(4)、学芸員の講座・講演等の講師件数(6)である。

本年度、引き続き改善が出来なかったものは、各種団体との連携のうち、農業及び医療福祉関係との連携(37)、市民ワークショップの回数(43)である。よってこれらの点は今後の優先的に取り組むべき課題として捉えたい。

過去の、自主研究グループ育成講座から自主研究グループに発展しなかった回(2007年度、2008年度グループ)については、今後も本質的には状況は変わらないであろうことから、プライオリティを下げ、評価指標としては削除した。

なお本年度の数値推移からみて不十分であると思われた点については、IIの【改善を要する点等】に述べた通りであり、これらは来年度以降の課題とする。

IV 自己評価に関する今後の計画

地域博物館における自己評価(PDCA サイクル)の意義については前号(2010年度)において既に詳しく述べた通りである。2010年度は、52個の比較的データが抽出しやすい指標を用いたが、今回は前回のチェック(Check)=評価によって、他にチェックすべき点の洗い出しをしたことを受け、新たにモニタリング調査なども採り入れ、評価指標を66に増やした。

なお、モニタリング調査とは、当館入口(門2か所)に調査員に待機してもらい、当館から出てくる利用者全員を対象に、対面式(インタビュー形式)で行った調査である。調査員は手持ちの質問用紙にしたがって質問をし、回答を選択肢の中から選んで用紙に記録していく。調査日は無作為に抽出をした10日間(6/3、6/30、8/27、10/12、11/12、12/17、1/27、2/12、2/17、3/26)とし、9時～17時の間(博物館の開館時間中)は常に調査員が張り付く形とした。この調査は、書きたい人、あるいは目に留めた利用者だけが回答を寄せる展覧会アンケートとは違い、市民会館も含む全利用者(団体等複数人の場合はその内の1名)が対象になる点で、展覧会アンケートよりも利用者全体の客観的かつ平均的なデータをとることができる。また、職員・スタッフの対応についてなど利用者が忌憚なく回答できるように、調査員は別途雇用をした。ただしこの調査は展覧会アンケートの客観性の検証のためのものではないので、展覧会アンケートで既に網羅している項目は除外し、新たに調査したい点においてのみ設問を用意して行った。例えば利用者満足度や、アクセスの問題などは、前年度の洗い出しで新たに調査対象となった指標である。

モニタリング調査以外にもいくつか新たな調査を開始した。例えば、新規収蔵資料の公開、清掃状況、見学補助状況などがそれにあたる。本年度の数値を基準に、今後の推移をみていきたい。また、計測の精度を高める努力をした。その多く(市職員の来館回数、博物館職員の訪庁回数、市民からの情報提供の数など)は、当館で学芸員が日々作成している館務日誌に記録し計上をすることで、精度の高い計測ができており、今後も継続していきたい。

	中項目	小項目	評価指標	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	凡例
掘り起こし活用する博物館 ミッション1 地域の文化資源を	①博物館機能を充実させる	資料の収集を行っているか	1 資料収蔵点数	16,673点	18,014点	19,750点	20,762点	21,901点	当館蔵の資料総数。1件に複数点の資料が含まれる場合、点で計上。
			2 寄贈された資料件数	10件	96件	156件	84件	102件	当該年度に市民から寄贈された資料数。資料台帳に登録された件数で計上。
			3 寄託された資料件数	1件	13件	0件	4件	1件	当該年度に寄託された資料数。資料台帳に登録された件数で計上。寄託資料のため、所有者に返却することで数が減じた場合は-で相殺する。
			4 購入した資料件数	18件/960,905円	11件/137,870円	7件/880,288円	26件/487,230円	47件/949,090円	当該年度に購入した資料数。資料台帳に登録された件数/購入総額を記載。
		資料の保管状況は良好か	5 収蔵庫、展示室ケース内の粘着トラップの点検回数	-	-	14回	15回	15回	展示室と収蔵庫に設置している虫害検査用粘着トラップの点検回数。
			学芸員は調査研究発表を行っているか	6 学芸員の講演・講座等の講師件数	2件	10件	11件	8件	16件
		7 学芸員による館外調査の件数		-	-	63件	73件	79件	学芸員が展覧会や資料調査等の目的で、館外で調査を行った件数。
		収蔵資料を公開しているか	8 館蔵資料閲覧の件数	-	-	11件	48件	35件	展示をしていない館蔵資料に対して閲覧申請を受け、対応をした件数。
			9 過去2年間の新規収蔵資料の展示公開割合	-	-	-	-	100.0%	前々年度と前年度に寄贈、寄託、購入により収集した資料を、展示や特別公開等の手段で一般公開した割合。寄贈者数をベースに計上(複数点ある「資料群」を収集した場合はそのうちの1点以上を公開)。また、調査参考目的で収集した資料(古書籍等)は対象外とする。
			10 他機関への資料貸出件数	2件	4件	7件	7件	4件	他機関への博物館資料等の貸出件数。
			11 他機関への写真貸出件数	9件	11件	14件	19件	25件	他機関への博物館資料等の写真(ポジ、データ)等の貸出件数。
開館日数は十分か	12 博物館開館日数		284日	231日	249日	254日	273日	火曜日・年末年始などの定期休館日、整備工事、展示替えやイベント等に伴う臨時休館日を除いた、年間の開館日数。	
施設の利用者数は保たれているか	博物館入館者数	13 市民会館開館日数	316日	312日	311日	265日	311日	臨時休館日を除いた、年間の開館日数。	
		14 博物館入館者数	22,642人	23,977人	24,168人	28,583人	29,868人	博物館開館日の入館者数。入り口のカウンタで計上。	
		15 博物館1日平均入館者数	79.7人	103.8人	97.1人	112.5人	109.4人	博物館開館日の入館者数を開館日でならしたものの。	
		16 特別展・企画展の平均リピーター率	46.1%	47.9%	36.8%	44.0%	50.6%	年間の展覧会アンケート回収枚数のうち、来館回数が2回目以上とした回答の割合。	
		17 市民会館の入館者数	4,844人※23月のみ	42,701人	43,741人	44,575人	44,508人	市民会館開館日の入館者数。正面玄関と内玄関の2箇所の入り口のカウンタで計上。	
		18 市民会館1日平均入館者数	146.8人※23月のみ	136.9人	140.6人	168.2人	143.1人	市民会館開館日の入館者数を開館日でならしたものの。	
		19 市民会館貸部屋稼働率	84.8%	91.3%	93.6%	97.0%	93.6%	市民会館の開館日のうち、貸部屋が利用された日の割合。	
	来館者は利用に満足しているか	20 市民会館の貸部屋利用団体数(市内)	603件	758件	804件	903件	962件	貸部屋申込団体のうち、市内の団体あるいは在住者が申し込み、利用した件数。	
		21 市民会館の貸部屋利用団体数(市外)	1件	13件	17件	28件	32件	貸部屋申込団体のうち、市外の団体あるいは在住者が申し込み、利用した件数。	
		22 特別展・企画展の平均満足度	90.2 pt	89.1 pt	86.5 pt	87.3 pt	88.1 pt	展覧会アンケートの該当項目を点数化(※1)したものの。	
②利用者サービスを図る	博物館の雰囲気、居心地に対する満足度	23 博物館の雰囲気、居心地に対する満足度	85.9 pt	84.3 pt	86 pt	84.9 pt	86.7 pt	展覧会アンケートの該当項目を点数化したものの。	
		24 貸部屋利用者満足度	-	-	-	-	86.7 pt	市民会館利用者アンケート(※2)の総合的満足度を点数化したものの。	
		25 職員・スタッフの対応を受けた来館者の割合	-	-	-	-	76.4%	モニタリング調査(※3)の該当項目より計上。	
		26 職員・スタッフの対応を受けた来館者の対応満足度	-	-	-	-	94.6 pt	モニタリング調査の該当項目を点数化したものの。	
		27 しょうがい者、高齢者等で、見学に補助が必要な方への対応件数	-	-	-	-	9件	当館職員、博物館ボランティアが、車椅子での移動(段差部分等)の介助、筆談等で見学を補助した件数。	
		28 博物館刊行物の販売冊数	326冊	284冊	713冊	637冊	541冊	博物館発行の図録や書籍の販売冊数の合計。委託書籍は含まない。	
		29 刊行物以外の品物の売り上げ	-	-	-	-	356,620円	書籍以外のグッズ類販売(自主事業)の売り上げ。	
博物館・市民会館へ利用者は迷わず来られるか	30 駅からのアクセス満足度	-	-	-	-	68.9 pt	モニタリング調査の該当項目を点数化したものの。		
	31 自家用車によるアクセス満足度	-	-	-	-	85.2 pt	モニタリング調査の該当項目を点数化したものの。		
	32 清潔さは保たれているか	-	-	-	-	10回	学芸員が市民つどいの間を清掃した回数。定期的な(日々の)清掃を除く。		
	33 これまで博物館を利用してこなかった市民に利用されるようになっているか	-	-	-	-	13.6%	モニタリング調査において、市内在住かつ初来館であると回答した利用者の割合。		
③市民の交流の拠点にする	施設が市民の交流と連携の場(ハブ)の役割を果たしているか	34 交流事業の参加者総数	560人/6回	332人/3回	303人/3回	173人/2回	227人/3回	「観月会」「ミュージアム・コンサート」、その他セミナーなどの参加者総数。交流事業に分類されている事業のうち、学校見学対応は含まない。	

	中項目	小項目	評価指標	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	凡例	
ミッション2 人やコミュニティが集い交流する博物館	③市民の交流の拠点にする	施設が市民の交流と連携の場(ハブ)の役目を果たしているか	35 小学校、中学校、高校、専門学校との連携件数	10件	16件	22件	27件	31件	市内外の学校との連携の累積件数(※4)。見学会、職場体験、学芸員による講演や出張授業、学校(クラブ)によるレセプションへの出演など。 大学との連携の累積件数。特別展のための合同調査、インターン受入、学芸員による講義、学生のスタッフ業務など。 各種団体との連携の累積件数。団体代表者への寺子屋講師依頼、学芸員による講演、展覧会や事業への協力など。 市民団体との連携の累積件数。市民団体とは、市民が文化活動、NPO、ボランティア(農・商工・医療福祉以外の分野)の活動を行う団体。 学校以外の公共機関(公共博物館を含む)や行政機関との連携の累積件数。事業共催、展覧会協力、行政職員への寺子屋講師依頼、学芸員による講演など。 モニタリング調査の該当項目より計上。	
			36 大学との連携件数	3件	3件	7件	9件	9件		
			37 各種団体(農・商工・医療福祉)との連携件数	4件	6件	41件	44件	54件		
			38 市民団体との連携件数	4件	10件	17件	23件	27件		
			39 行政との連携件数	2件	3件	4件	11件	12件		
			40 当館のまちづくりの拠点機能を知っている市民の割合	-	-	-	-	52.3%		
	地域産業のPRになる取り組みをしているか	41 土産物マップの印刷枚数	-	-	-	-	2,700枚	野田散策 MAP「土産物編」の印刷枚数。なお印刷したものはすべて当館内で配布している。		
		④市民や市役所との意思疎通を図る	博物館は市民と意思疎通する機会を設けているか	42 特別展オープニングレセプションの参加者数	12人	50人	80人	45人	55人	特別展の初日に行われるオープニングレセプションへの参加者数。
	43 市民ワークショップの回数			1回	0回	0回	0回	0回	市民から博物館へ意見をもらうワークショップなどの開催回数。	
	44 市民からの情報提供の数			-	-	-	-	23件	市内の文化資源に関する話題や情報、所有する資料についての情報が寄せられた件数。	
行政は博物館・市民会館に関心を向けているか	45 市職員の来館回数		195回	76回	70回	107回	123回	日々の業務の中で市職員が来館した回数。館務日誌から計上。		
	46 市長、副市長、教育長の来館回数	12回	2回	6回	6回	16回	公式・非公式を問わず来館した回数。			
	47 博物館職員の訪庁回数	-	-	-	-	167回	当館職員が業務のため市役所を訪問した回数。			
⑤博物館の活動を広める	情報を発信しているか	48 TVで博物館が取り上げられた件数	11件	9件	8件	8件	8件	8件	TVのニュースや特集番組で当館及び当館事業が紹介された件数。ケーブルテレビを含む。	
		49 雑誌で博物館が取り上げられた件数	1件	0件	0件	1件	0件	0件	雑誌で当館及び当館事業が紹介された件数。	
		50 新聞で博物館が取り上げられた件数	11件	22件	14件	18件	14件	14件	新聞で当館及び当館事業が紹介された件数。	
		51 ロケ地としての利用回数	0回	1回	1回	3回	1回	1回	市民会館がCMや映画等のロケ地として使用された回数。実績はTVドラマ、TVCM、CDジャケット撮影、雑誌撮影など。非商用の撮影利用は含まない。	
		52 ウェブサイトのアクセス件数	-	40,522件	56,828件	61,531件	52,021件	52,021件	ホームページ管理業務委託者より提出される月例報告を元とした訪問者数。訪問者数は、30分以内で同一IPアドレスからはカウントしないアクセス数。	
ミッション3 人びとの生き方や成長を支援 してキャリアデザインをはかる博物館	⑥市民のキャリアデザインに貢献する	市民が関心をもち、事業参加しているか	53 市民参加型企画展(年1~2回)の平均入館者数	5,404人	4,909人	5,969人	8,510人	8,113人	「市民コレクション展」「市民の文化活動報告展」「市民公募展」など市民参加型企画展開催時の博物館入館者数合計を、企画展開催回数でならしたものの。	
			54 寺子屋講座(年22~24回)の平均参加者数	21人	16人	16人	16人	20人	20人	寺子屋講座「まちの仕事人講話」と「芸道文化講座」の参加者数合計を開催回数でならしたものの。受付簿を元に計上。
			55 キャリアデザイン事業(講座関係)(年7~10回)の平均参加者数	9人	19人	13人	14人	9人	9人	「自主研究グループ育成講座」「キャリアデザイン連続講座」「キャリアデザイン講演会」「ワークショップ」「親子の茶道講座」の参加者数を開催回数でならしたものの。受付簿を元に計上。連続講座の場合はのべ回数+のべ人数で計上。
			56 親子、3世代来館の割合	-	-	-	-	8.2%	8.2%	モニタリング調査において、親子あるいは3世代で来館したと回答した利用者の割合。
			57 「市民のキャリアデザインの拠点」機能を知っている来館者の割合	-	-	-	-	46.4%	46.4%	モニタリング調査の該当項目より計上。
	市民がキャリアのステップアップを図っているか	58 2009年度自主研究グループ「野田古文書仲間」の人数			13人 (うち新規2人)	11人 (うち新規0人)	11人 (うち新規0人)	11人 (うち新規0人)	講座後、自主研究グループ結成の呼びかけに応じて参加した修了者の人数。 ()内は、当該年度に新たにメンバーに加わった人数。	
		59 2009年度自主研究グループ「野田古文書仲間」の活動回数			16回	22回	19回	19回	「野田古文書仲間」が活動した回数。博物館で把握している活動を計上。	
		60 2011年度自主研究グループ「なつかしの道具探究会」の人数					5人 (うち新規0人)	5人 (うち新規0人)	講座後、自主研究グループ結成の呼びかけに応じて参加した修了者の人数。 ()内は、当該年度に新たにメンバーに加わった人数。	

	中項目	小項目	評価指標	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	凡例
支援してキャリアデザインをはかる博物館 ミッション3 人びとの生き方や成長を	⑥市民のキャリアデザインに貢献する	市民がキャリアのステップアップを図っているか	61 2011年度自主研究グループ「なつかしの道具探究会」の活動回数					13回	「なつかしの道具探究会」が活動した回数。博物館で把握している活動を計上。
			62 自主研究グループの活動実施回数合計	3回	2回	16回	22回	32回	これまで発足した自主研究グループの活動実施回数の合計。
			63 事業参加者のうち寺子屋講師を務めた人の件数	4件	2件	4件	8件	6件	
			64 人材バンク登録件数	—	—	—	137件	154件	人材バンクに登録された人数。
			65 人材バンク閲覧件数	1件	1件	1件	2件	2件	人材バンクを閲覧、あるいは職員が人材バンク情報を利用して人材を仲介した件数。
			66 博物館ボランティアの活動延べ人数			168人	348人	480人	博物館ボランティアの通常業務、および月例の連絡会、研修会への参加人数。ボランティアの出動簿を元に計上。

■ : 該当する事業が開始されていない年 — : データがない年

- ※1 展覧会アンケートの4段階の選択肢の上位から100、75、25、0ポイント(pt)を付与し、当該項目回答者総数で除して算出した点数。
- ※2 市民会館の頻繁な利用者(おおむね月2回以上利用する団体のメンバー)に直接アンケートを手渡して回収。2011年度回収枚数66枚。
- ※3 開館日から無作為に抽出した10日、9時～17時の間、当館入口(門2か所)から出てくる利用者全員を対象に(団体等複数人の場合はその内の1名)対面式(インタビュー形式)の調査。2011年度回収枚数306枚。
- ※4 市民個人ではなく、市内コミュニティ(団体や組織)との「つながり」が出来たものを1件として累積計上。資料調査、講演協力、団体や組織としてのイベント参加及び協力、施設管理に関わるもの等を含む。